

2011年度経営プラン 中間フォロー

2011年11月
古河電気工業株式会社
取締役社長 吉田 政雄

(単位:億円)

●前年同期比減益・予想比増益

| | A | B | C | C-A | C-B |
|------|--------|--------|--------|-------|------|
| | 10Q2実績 | 11Q2予想 | 11Q2実績 | 前年同期比 | 予想比 |
| 売上高 | 4,569 | 4,500 | 4,687 | +118 | +187 |
| 営業利益 | 177 | 100 | 105 | -72 | +5 |

前年同期比では、南米ブラジルの通信事業者向け光ケーブルや国内産業電線などは好調でしたが、震災・円高などの影響により、自動車・電子向け素材事業が低調に推移し、全体として減益となりました。予想比では、自動車生産の回復が早まり、増益となりました。

●米国反トラスト法違反で罰金計上

Q2決算で特別損失として-153億円を計上しました。

下期に資産売却等で特別利益を計上する予定です。

2011年度Q2累計業績

11Q2累計PL実績(前年同期比)

FURUKAWA ELECTRIC

(単位:億円)

| PL | a 10Q2累計 | b 11Q2累計 | b-a 増減 | 増減要因 |
|----------|-------------|-------------|---------------|------------------------|
| 売上高 | 4,569 | 4,687 | +118 +2.6% | 特殊要因+124 (地金価格変動など) |
| 営業利益 | 177 | 105 | -72 | ⇒6、7ページで分析 |
| 経常利益 | 161 | 100 | -62 | |
| 特別損益 | -34 | -175 | -141 | うち米国反トラスト-153 |
| 法人税等・調整額 | -27 | -40 | -14 | |
| 少数株主損益 | -30 | -16 | +14 | うち古河スカイ分+15 |
| 当期純利益 | 70 | -132 | -202 | |

(注)損益的にマイナス項目は-をつけた

11Q2末BS実績(前年度末比)

FURUKAWA ELECTRIC

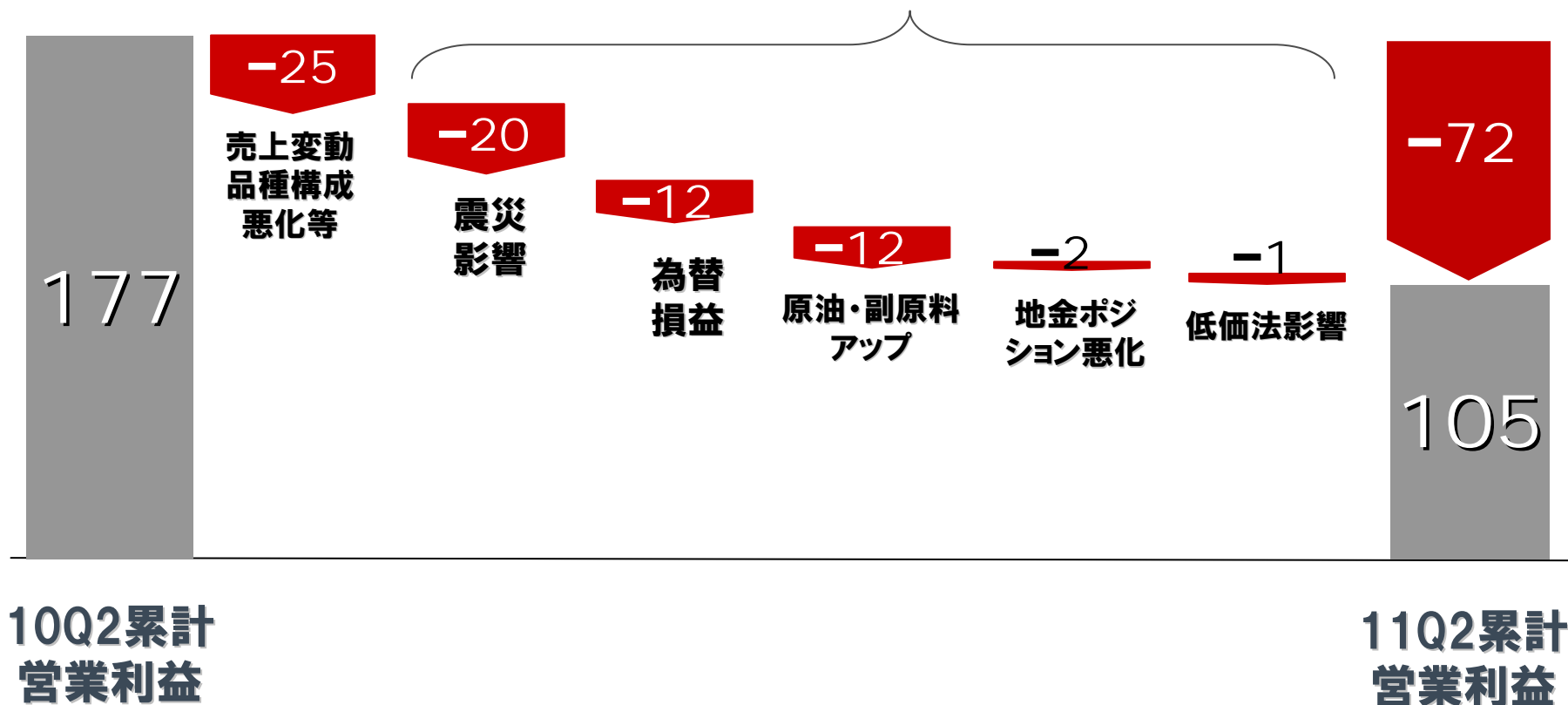
(総資産、有利子負債の単位:億円)

| | a | b | b-a |
|---------------|-------|--------|-------|
| BS | 10年度末 | 11Q2末 | 増減 |
| 総資産 | 8,269 | 8,071 | -198 |
| 有利子負債 | 3,416 | 3,402 | -14 |
| 自己資本比率 | 20.1% | 18.1% | -2.0 |
| D/Eレシオ | 2.06 | 2.33 | +0.27 |
| 総資産回転率 | 1.12 | *1.16 | +0.04 |
| ROA | 4.2% | *2.6% | -1.6 |
| (営業利益ベース) | | *年率換算値 | |

営業利益増減分析(前年同期比)

(単位:億円)

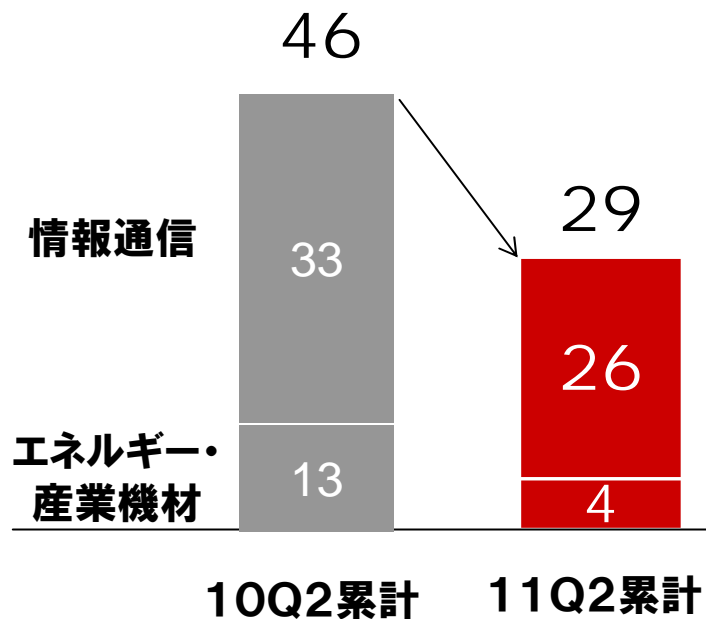
震災・円高・原油アップなどで-47億円悪化



セグメント別営業利益推移(前年同期比)

FURUKAWA ELECTRIC
(単位:億円)

伝送インフラ系



【情報通信】

●光ファイバ・ケーブルは、国内では円高などの影響で悪化しましたが、ブラジルの通信会社向けが好調でした。

●一方、光アンプや通信用レーザは円高・価格下落などで悪化、ネットワーク機器も地デジ特需の反動減で低調でした。

【エネルギー・産業機材】

●中国高圧ケーブルは需要旺盛でしたが、競争環境が悪化しました。

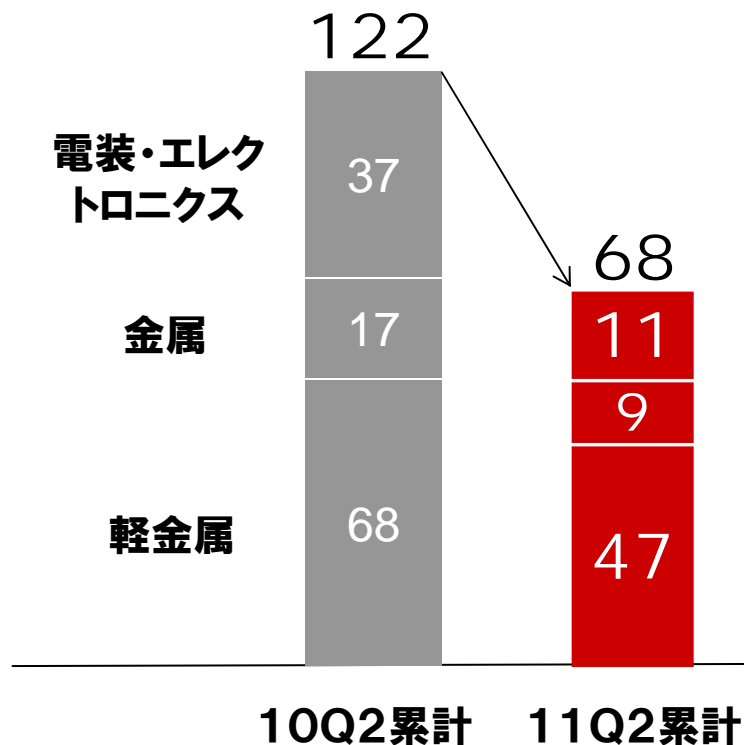
●国内電力会社向け部品は低調でしたが、建設用電線は震災で需要が増えました。

●LED液晶TV用MCPETは需要が減少し売上が計画を下回りました。

セグメント別営業利益推移(前年同期比)

FURUKAWA ELECTRIC
(単位:億円)

高機能素材系



【電装・エレクトロニクス】

- HDD用ガラス基板の減損による償却費減や巻線の構造改革が寄与しました。
- 震災による自動車減産によりワイヤーハーネスや電池の需要が減りました。

【金属】

- エアコン用銅管は量は減少しましたが、構造改革効果が出ました
- 電子部品用銅条や、電気自動車向けリチウム電池用を除く銅箔の需要が低調でした。

【軽金属】

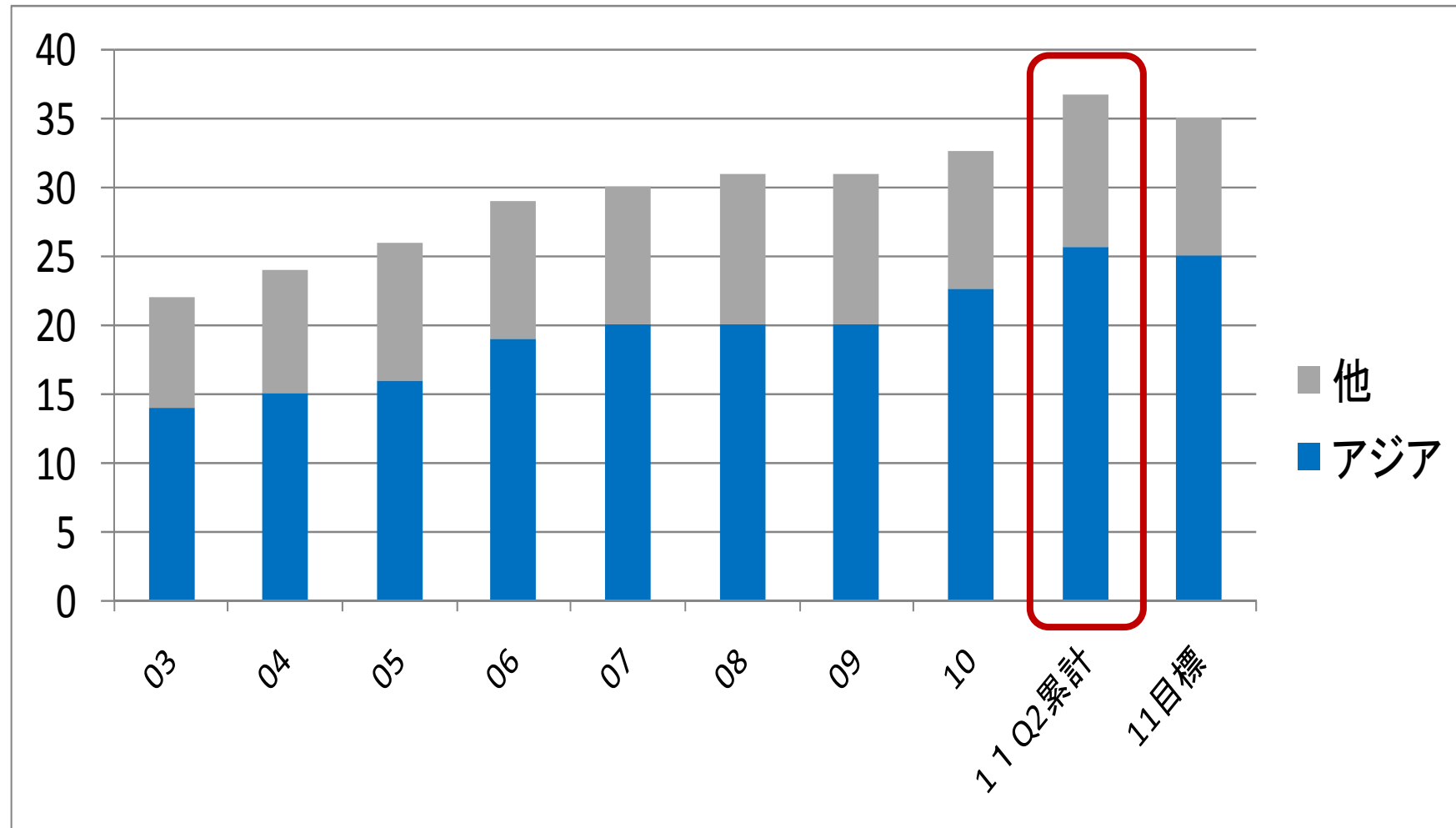
- 震災による自動車部品材の減少や円高の影響による輸出材の減少により売上が減少しました。

海外売上高比率推移

FURUKAWA ELECTRIC

(単位:%)

11年度Q2累計:36.7%、東南アジアで伸長



2011年度経営プラン

伝送インフラ系

⇒ Q2累計比で売上高±5%未満

⇒ Q2累計比で売上高+5%以上

⇒ Q2累計比で売上高-5%以上

情報通信

光ファイバ・ケーブル： 日本：ケーブル需要低調続く

海外：ファイバ需要旺盛続く

フォトニクス・ネットワーク： 光アンプ、レーザの低調続く

タイ洪水でレーザの生産に影響

エネルギー

超高圧関連： 日本：電力会社向け低調続く 中国：受注好調

建設関連： 震災後の反動減から回復傾向

高機能素材系

エレクトロニクス関連

液晶・半導体： 液晶TV用MCPETの需要減

半導体製造用テープの競争激化

リードフレーム・コネクタ材の需要減

ハードディスク： アルミMDは在庫調整およびタイ洪水でのユーザ被災で減

FPC、リチウム： 電池箔はパソコン需要減により低調

自動車関連

ハーネス： 下期は自動車生産が回復、タイ洪水影響が懸念

EV用電池箔： 下期も急成長続く

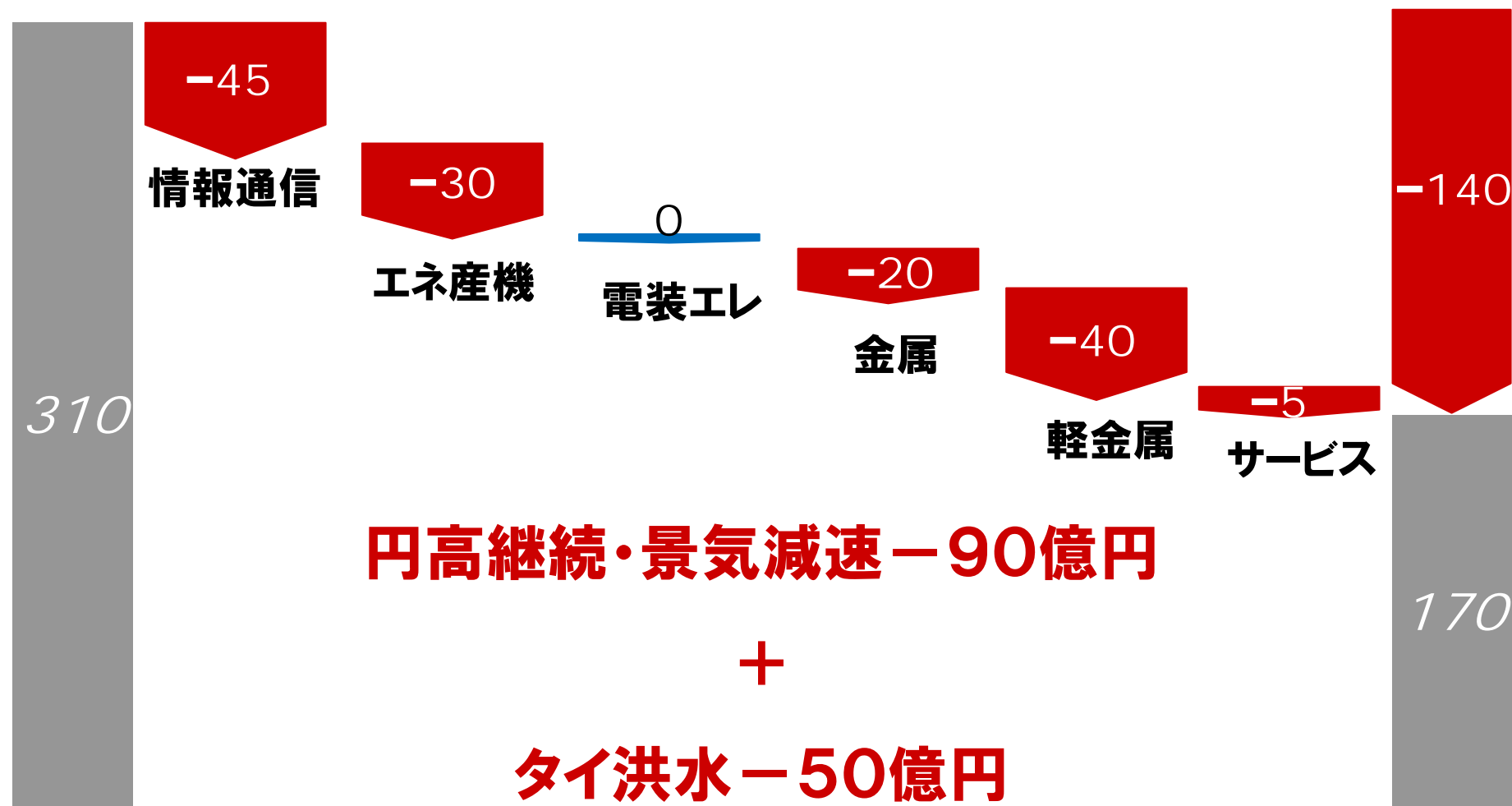
11年度予想修正 円高・景気減速・タイ洪水を反映 FURUKAWA ELECTRIC

(単位:億円)

| | 11Q2累計 | 11年度 | | |
|---------------|--------|--------|-------|-----------|
| | 実績 | 旧予想 | 新予想 | 増減 |
| 売上高 | 4,687 | 9,500 | 9,350 | -150 |
| 営業利益 | 105 | 310 | 170 | -140 |
| 経常利益 | 100 | 290 | 145 | -145 |
| 当期利益 | -132 | 30 | -50 | -80 |
| 配当 | 中間2.5円 | 年間5.5円 | 年間未定 | |
| 前提 | | | | |
| 為替レート(円/ドル) | 82.0 | 85 | 80 | (下半期 77) |
| 銅ベース(円/kg) | 772 | 860 | 750 | (下半期 730) |
| ドバイ原油(ドル/バレル) | 109 | 115 | 107 | (下半期 104) |

営業利益増減分析【11年度旧予想⇒新予想】

(単位:億円)



旧予想

新予想

通期新予想に**-50億円**の損失予想を織り込みました。

影響を受けている主な事業の現状は以下の通りです。

【**光アンプ用半導体レーザ**】 冠水。日本での代替生産に向け準備中

【**リードフレーム用銅めっき材**】 冠水。日本での一部代替生産を検討中

【**エアコン用銅管**】 直接被害なし。ユーザ被災のため数量減の可能性

【**自動車用ワイヤーハーネス**】 直接被害なし。ユーザ被災のため数量減の可能性

【**HDD用アルミブランク材**】 全量日本で生産。ユーザ被災のため数量減の可能性

【**アルミ圧延品**】 コイルセンター被災。ユーザ被災のため数量減の可能性

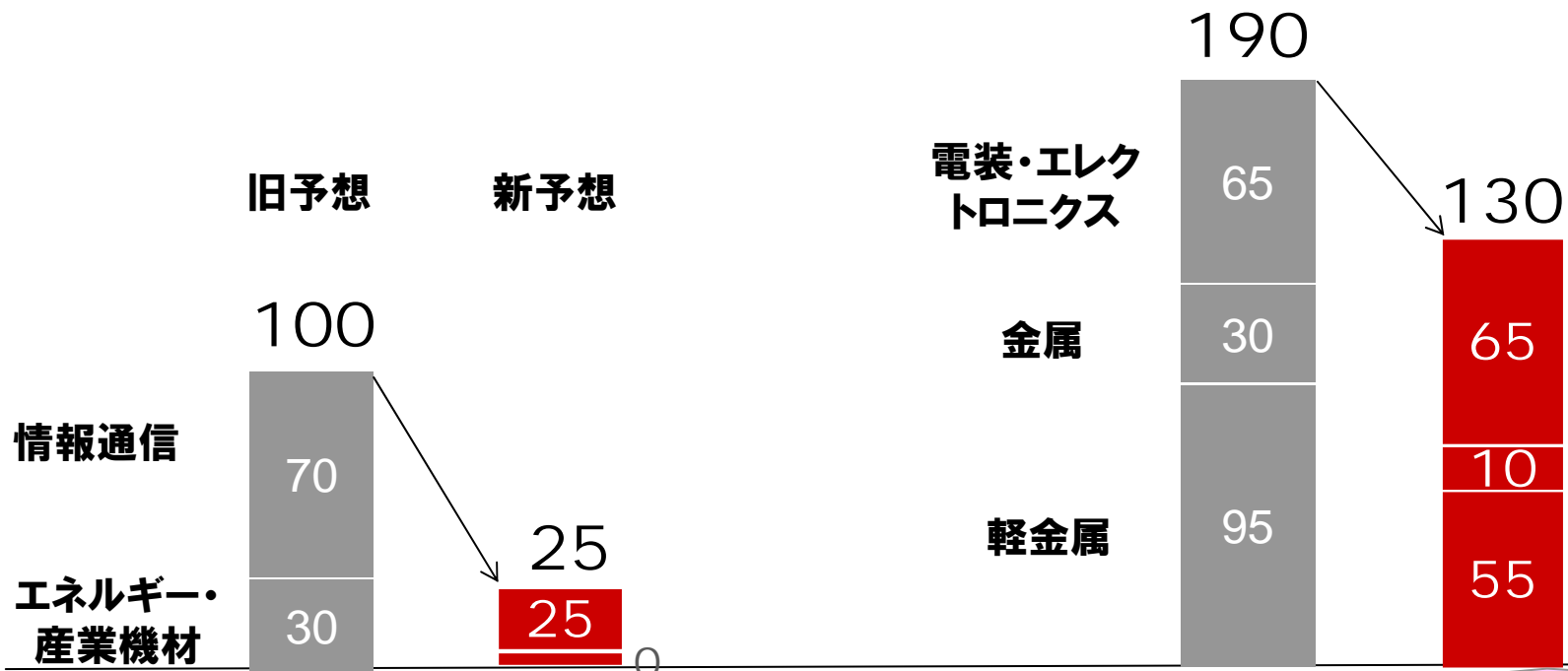
なお、被災した各社は損害保険に加入しており、設備の補償は受けられる見込み

セグメント別営業利益予想

FURUKAWA ELECTRIC
(単位:億円)

伝送インフラ系

高機能素材系



【情報通信】

光ケーブルの国内需要減、
タイのレーザ工場被災の影響など

【エネルギー・産業機材】

MCPETなど発泡製品の需要減、
半導体テープの需要減など

【電装・エレクトロニクス】

タイのHDDメーカー被災による需要減
自動車の生産回復など

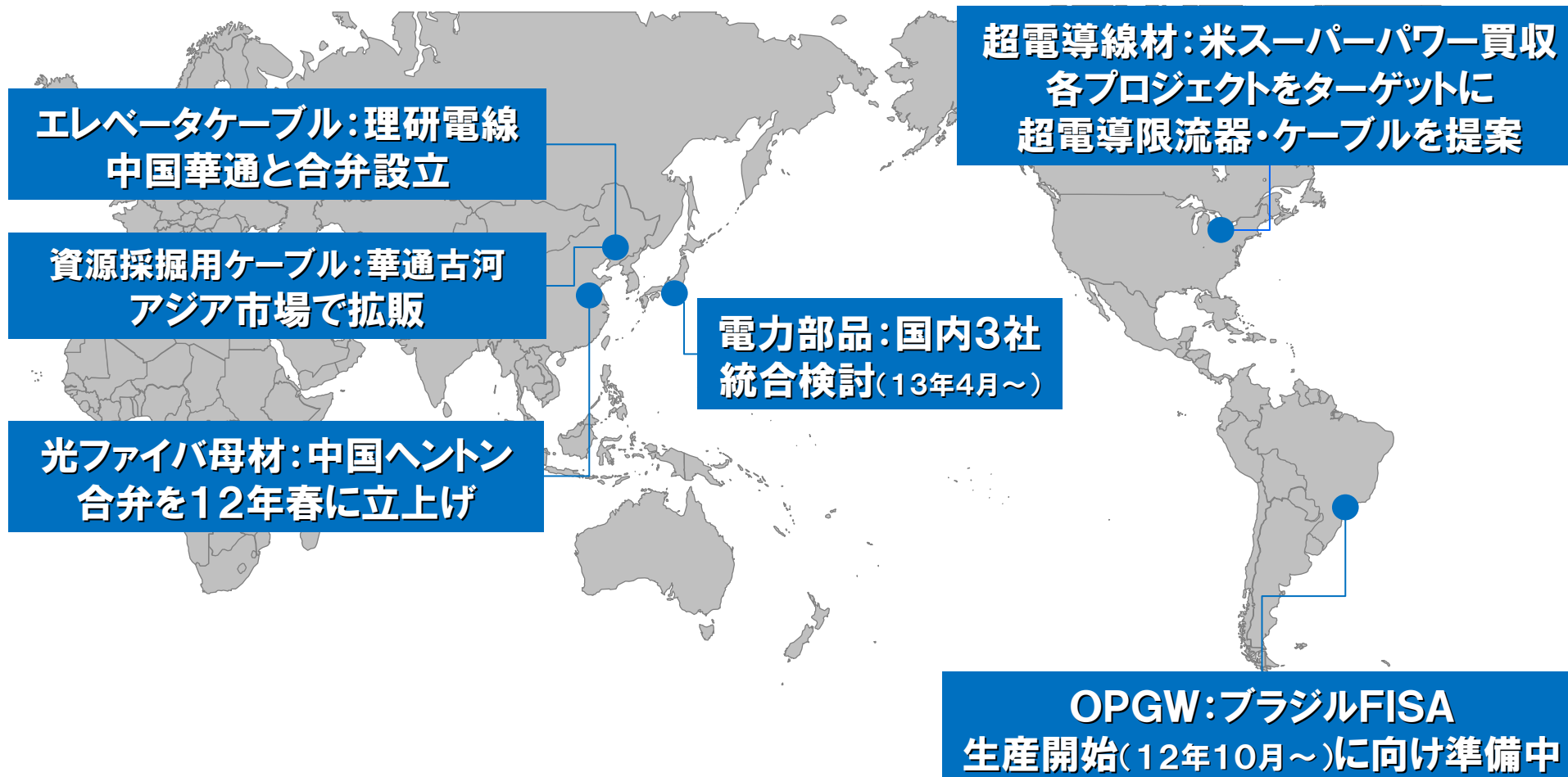
【金属】

エレクトロニクス向け銅条・銅箔の需要減など

【軽金属】

液晶・半導体製造装置向け厚板の需要減、タイ洪水による輸出減など

「伝送インフラ事業」のグローバル成長を加速



「高機能素材事業」の強化

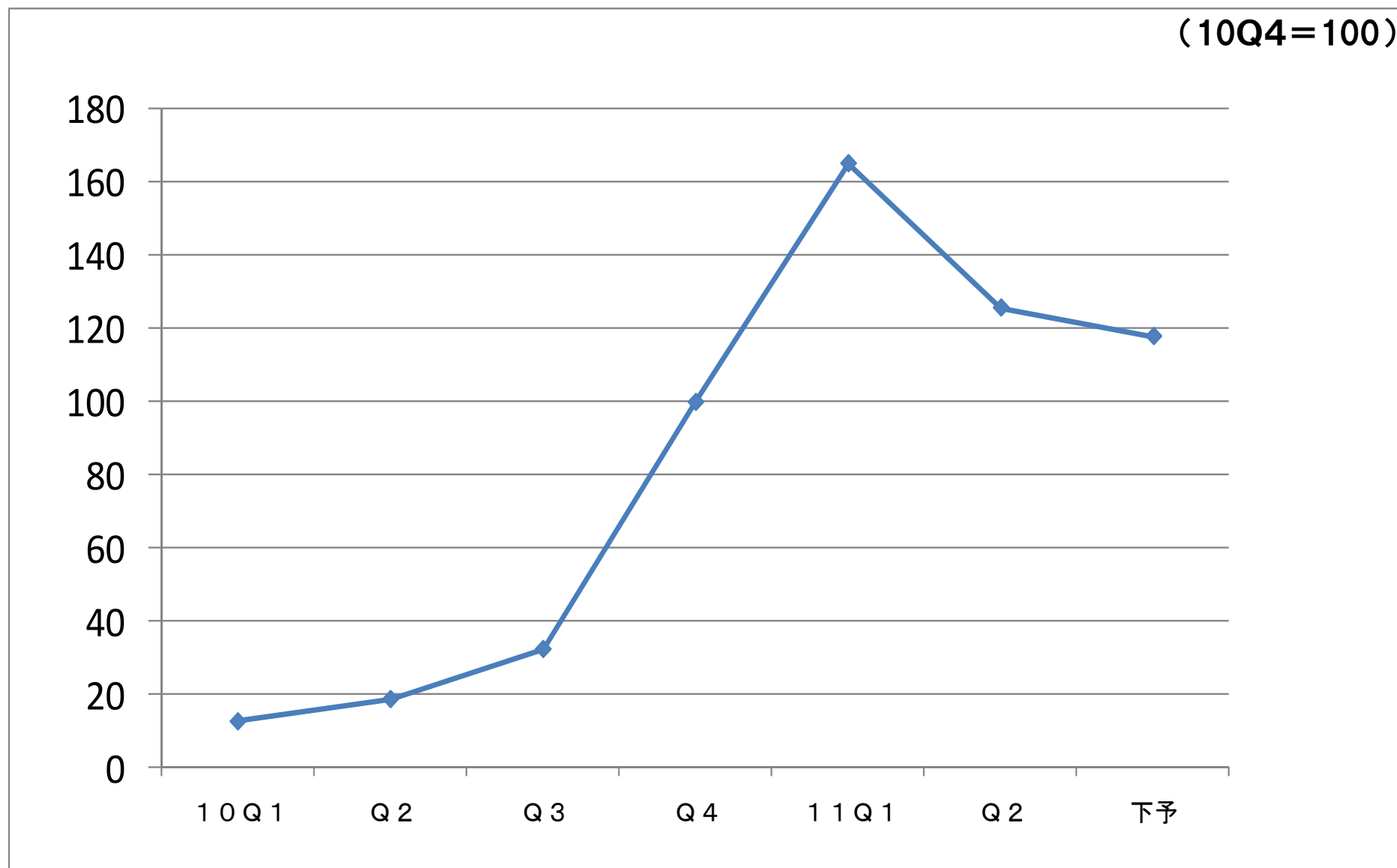
- MCPET** コストダウン強化、照明・自動車向け展開検討
- 電解銅箔** EV用好調、台湾生産を12年8月に前倒し
- ハーネス** 経営権を取得した中国重慶長華で商圈拡大
米国子会社2社を合併し、事業基盤を強化

「伝統的加工事業」の再構築

- 銅管** 国内スリム化11年12月に完了

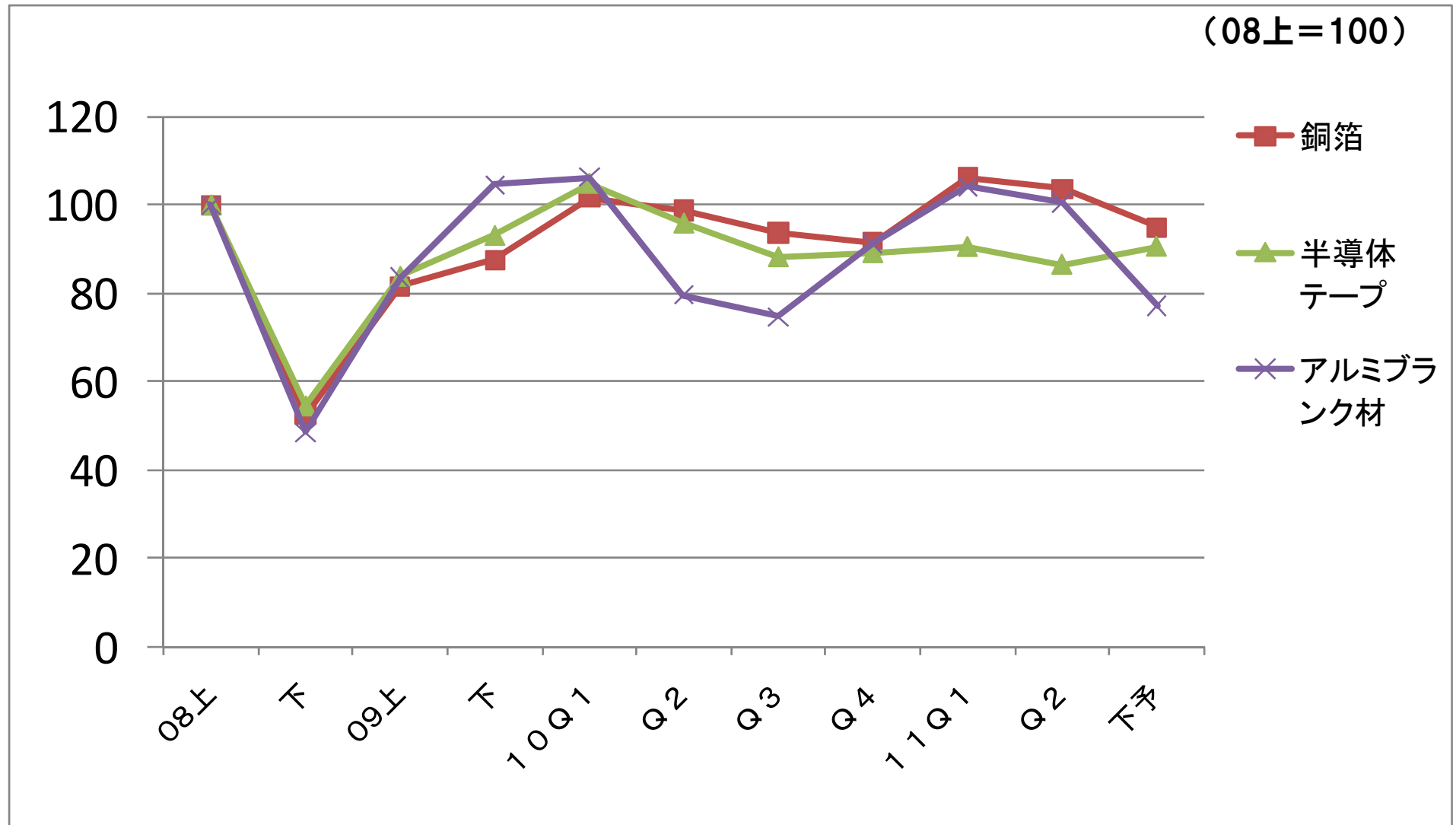
《液晶TV用MCPET》 売上量指数推移

FURUKAWA ELECTRIC



《高機能素材》 売上量指数推移

FURUKAWA ELECTRIC



ご清聴ありがとうございました。

Bound to  ***Innovate***

将来情報についての注意事項

この資料に記載されております売上高及び利益等の計画のうち、過去または現在の事実に関するもの以外は、当社グループの各事業に関する業界の動向についての見通しを含む経済状況、ならびに為替レートの変動その他の業績に影響を与える要因について、現時点で入手可能な情報をもとにした当社グループの仮定及び判断に基づく見通しを前提としております。

これら将来予想に関する記述は、既知または未知のリスク及び不確実性が内在しており、例として以下のものが挙げられますが、これらに限られるものではありません。

- ・米国、欧州、日本その他のアジア諸国の経済情勢、特に個人消費及び企業による設備投資の動向
- ・米ドル、ユーロ、アジア諸国の各通貨の為替相場の変動
- ・急速な技術革新と当社グループの対応能力
- ・財務的、経営的、環境的な諸前提の変動
- ・諸外国による現在及び将来の貿易規制等
- ・当社グループが所有する有価証券等の時価の変動

従いまして、実際の売上高及び利益等と、この資料に記載されております計画とは大きく異なる場合があることをご承知おき下さい。なお、当社グループは、この資料の本リリース後においても、将来予想に関する記述を更新して公表する義務を負うものではありません。

著作権等について

この資料のいかなる部分についてもその著作権その他一切の権利は、古河電気工業株式会社に帰属しており、あらゆる方法を問わず、無断で複製または転用することを禁止します。